

梨木踏切に係る意見交換会（要旨）

日 時：平成 28 年 5 月 26 日（木）

19：00～21：00

場 所：市役所 204 会議室

参加者数：37 名

Q：踏切については、廃止の方向で市としても進めるという理解でいいのか。

A：皆様方の非常に大きな意見があるという事を踏まえ、引続き協議をお願いしている。

Q：踏切を渡るのに 6m ぐらいしかないところを、迂回ルート①は 360m もアップダウンして迂回しなければ駅の方へ出られない。ルート②は階段があるので健康な人しか使えない。ルート③は、240m 迂回して隣接の檜の木踏切を通ることになるが、檜の木踏切は、自動車・自転車・歩行者がたくさん通っていて、むしろこちらの方が危険である。これだけの高齢化社会の中で、もし踏切が閉鎖されたら、お年寄りも駅の方へ行けない。病院にも行けない。「アンダーパスが出来たからその踏切は廃止します」ではなく、梨木踏切の実態をよく考えてほしい。

A：迂回ルートの問題点は、私どももおっしゃる通りだと認識している。他に良いルートがないか検討しているが、今のところ見つからない。

Q：八高線沿いに幅員 2 m 程度の歩行者・自転車道を造ってくれないか。そうすれば迂回距離が少し短縮する。その案を第 4 案として提案したい。

A：即答は出来ないが、検討材料の一つとしたい。

Q：迂回についての話に終始しているが、私たちは残してほしいと言っている。踏切廃止に伴う様々な問題を提示しているが、市はどう受け止めているのか。JR との協議に進展がないと言っているが、迂回ありきで進めているのか、あるいは踏切の存続を検討してくれているのか。そもそも踏切存続の可能性を市はどのように考えているのか。我々はそもそも存続の立場ですから、迂回の話ではない。

A：計画道路に踏切がかかっていないため、切り離していく事も可能なのかと考えている。ただし、軌道交差部は JR に工事をお願いしなければならない。JR との計画協議では、梨木踏切の除却が前提という条件がある。そうした中で、踏切を残すことは厳しいと考えている。ただし、皆様方から大きな声を頂いており、私どもも真摯に受け止めて、その声を JR に伝えているところである。

Q：JR との協議内容を教えてほしい。

A : JRには踏切存置の要望が出ていることを申し上げている。継続的な協議を要望している。

Q : 話が進展していないのはなぜか。

A : 工事を始めるという段階で具体的に話が出てくるが、現時点では、着工時期が決まっていない中で、協議のテーブルに載っていないというのが現状である。

Q : 切り離して考える要素があるなら、そこは頑張ってもらいたい。踏切を廃止する問題を提起されているが、1つ1つ解決させているのか。それから逆に「踏切を存続するには、こうした問題がある」といったことを市民に提示しているのか、そしてそれを1つ1つ潰しているのか。まずそこから始めないと、切り離して考える要素があるというならば、迂回の話を進めてもしょうがないのではないのか。

A : こうした大きなご意見を頂くまでは、ある程度ご理解頂けるものと考えていた。バリアフリー法に則ったスロープや階段を検討してきたが、高齢者にとっては階段自体がバリアであるという言葉を受けているので、それは重く受け止めている。

Q : 梨木踏切が一番のルートだから、どのような迂回ルートを提示されても意味がない。JRの協議に対してどのようなスタンスで、どのような言い方をしているのかが明確になっていない。どのような立場で臨んでいるのか聞かせてほしい。市長はどのような立場に立っているのか。これまで、議会で何回も質問され、全会派の議員からもこの問題について、存続してほしいとでてきたことは間違いないし、そのような中で市として市民の立場に立って、毅然とJRに対して臨んで頂きたい。

A : 市のスタンスをYES、NOの2つに1つと突きつけられると、原則的には一般論、除却の方向である。ただし、地域住民のご要望、梨木踏切の状況を踏まえてJRにお願いしている。

Q : 都市計画道路と梨木踏切は関係ない。市道だから市の権限であり、JRに権限は無い。市の権限で決められるわけだから、市が残すと言えればいい。そこで、JRとまた交渉になるかもしれないが、都市計画道路を造るのをJRが認めないなんて、そんなこと言える権限は無いだろう。

A : 権限はないが、どのような影響が生じてしまうのか考慮する必要がある。

Q : どのような影響があるのか。

A : 都市計画道路の築造に影響が生じることも考えられる。

Q : 財政が厳しいのになぜ大金を投じるのか。アンダーパスはいらない。現状維持でい

いのだから、市はなにもしなくていい。

A：都市計画道路は国の補助金も頂いており、皆様の貴重な税金も使っている。なぜ必要なのかと言え、災害時の物資の搬出入や地域の活性化にもつながる。鉄道と交差する場合は、踏切は許されない。国は踏切事故を懸念して1つでも多く整理していきたいと考えている。市としても基本的にはそういう考えがあるが、生活道路としての利用価値が高いという話を聞いており、昨年来から市長への手紙も頂いている。市長には説明会・意見交換会であったご意見については報告しているし手紙も確認している。自治体の役割として、踏切は危険であるので何とか皆様にご理解頂ければ統合していきたいという考えは、国、都、市、JRも同じスタンスである。ただし今回、ご意見を頂いているので、通常原則論から外せないかというところで我々も認識している。それを含めてJRと協議している。

工事が始まらないのに踏切が無くなるという事はない。始めるにあたってどうするかを決めていかななくてはいけないし、ご提案頂いたご負担が少なく済むような迂回路が出来ればという事も考えている。JRと話が進んでいないとあったが、我々としても皆様のご意見を踏まえながら、これをどういう風にしていったらよいかJRとその都度協議をしている。

Q：踏切はどこかで渡らなければならない。梨木踏切を閉めたからと言って、安全が確保されるわけではない。ほかの踏切を渡らなければいけない。

Q：JRの担当者呼んで、市民との話し合いは出来ないか。

A：今の段階ではそういった状況には無い。

Q：工事が始まった時に梨木踏切は閉鎖するのか。もし閉めて工事中だけ迂回してくださいという事で、工事が終わってもそのまま閉められたらかなわない。

A：皆様にお話をしないで踏切を閉めることは絶対にしない。

Q：後ろ向きの話が多いが、前向きな材料も挙げて交渉して頂きたい。側道部に手厚い歩道があるので有効利用しないのはもったいない。アピールポイントとして推して行ってほしい。

A：貴重なご意見として承る。

Q：JRとの協議は市としてしっかりと態度を決めてほしい。「住民の意見を尊重して、住民の生活を守って、梨木踏切は残す」という立場でJRと交渉するのか、「住民からはこのような意見が出ている」という話だけでJRに結果を求めるのか、ここで大きく変わってくると思うが、ぜひ市として踏切をどうするのか。JRに任せる

のではなく、市としての腹を決めて、交渉に関わって頂かないと交渉の結果がJRの意向どおりになってしまう。梨木踏切で事故が多いとか色々と問題があるという認識は無い。逆に無くなった時の問題が大きいと考えるから、私たちは存続を要望している。基本路線だけで進めても住民との意見の差は埋まらない。ぜひ市としての腹を括って頂きたい。

A：先ほどからの回答と一緒に恐縮であるが、都市計画道路とは切り離してほしいという事でご理解頂けないものかと考えている。しかしながら、原則的な考え方があって、そこから外すことは今の段階では難しい。

Q：全国で危険な踏切が何千ヶ所もある。その中に梨木踏切は含まれていない。八高線で運行本数も限られている。今後、複線化で本数も増えていくという計画があるならば考える要素があるかもしれないが、多分、当面は現行のままだろう。基本的なことはわかるが、実際の生活レベルに目を移して、市としてどうするのか、しっかりと決めてJRと交渉してもらいたい。

A：これまで皆様から頂いたご意見を踏まえて今後もJRと協議に臨んでいきたい。

Q：市の中でもよく協議してほしい。市議会議員からも色々言って頂いているようである。市議は我々市民の代弁者であるから、よろしく願いしたい。

Q：JRとの折衝はどの程度の頻度でやっているのか。

A：他の協議に合わせて機会を設けているため、この1年間では3回の実施となっている。その前年では、もう少し高い頻度で協議をしている。

Q：1回の協議の時間はどれぐらいか。

A：30分から2時間程度である。

Q：次回はいつ協議するのか。

A：今現在、日程調整は出来ていない。昨年の説明会や意見交換会の終わった後には1週間以内に電話で報告している。

Q：単なる報告で終わらせているのか。それも電話で。

A：なかなか打ち合わせの場を設けられないので、電話で報告している。これだけの意見があるということを周知する意味で情報としてお伝えしている。

Q：だとすれば電話で報告ではなく書面で、それなりの決裁をとって申し入れすべきである。相手に対する市民としての声としないと伝わらない。

Q : 市がどちらのスタンスに立っているのかという事を一番問われている。そこがはっきりしないと、国やJRに責任を預けているようで、やはり市が市民の代表としてスタンスをはっきりしないと、JRも真剣には考えないと思う。必要であれば我々もJRに言わないと、強く感じてくれないのかなという思いがした。我々利用している人間が直接JRにお話しした方が早く、また思いが届けられるのではないかと考えている。やはり行政は行政の立場があってオブラートに包んでしまい、JRもJRでそれぞれの立場があって、そういう安全のためだけとか、そういうものに先行してしまうきらいがある。必要に応じては、直接交渉させてもらわなければならないが、やはり市の立場がはっきりしていることがJRにも効くと思う。

A : 担当として今この場で申し上げられるのは、切り離しての交渉をお願いしていくという事である。

Q : それならば、責任もって返事できる人をここへ連れてきて私たちが納得させて頂きたい。

A : 本日の意見交換会が実の無い内容になってしまったことはお詫び申し上げます。前回から1年が経過したなかで、改めて皆様方のご意見を伺う機会とし、我々もそれを前提に今後もJRに対して要請してまいりたいと考えている。

Q : この結論はいつ頃までに出すのか。年3回の協議では無理だろう。

A : まだ、具体的な見通しは立っていない。一定の時期が来たら話を進めていかないといけないが、今の段階ではそこに至っていない。

Q : 市の方針が基本的スタンスを踏襲するという事を変えなければ、この問題は解決しない。だけど、そのスタンスはこの場で変えられない。このスタンスを変えるにはどういう事が必要なのか。

Q : 今、どうする、こうするとは言えないとしても、職位上の権限の中で私たちの意見も理解して頂いたと思う。その中で、市としての態度をこの後しっかり決めて頂いて、そのうえでJRと交渉する必要である。梨木踏切を残す場合の問題点等もご相談頂きたい。計画ありきの中でなくすという事で進んできてしまっているのも、ぜひ部課長さんがいるので、今一度計画を見直して頂いて、どこかの段階で修正がきかないことはないと思うので、修正できる部分は修正してほしい。

A : 平成26年7月の説明会以降、皆様から大きな声を頂いている。我々としては皆様の声を真摯に受け止めているつもりである。皆様から見ればなかなか進まないと思

われていると思うが、工事の始まる前に皆様にご相談なく踏切を廃止することは絶対ないことである。時間をかけてでも協議をしていきたいと考えている。この場で「残します」と言えれば皆様が安心してお帰り頂けると思うが、それが今我々としても言えない状況である。ただし、このような貴重な時間を頂いて、昨年、今年と様々なご意見も頂いている。これから時間をかけてこの問題に取り組んでまいりつもりであるので、またこのような時間を頂くこともあると思うが、ご理解頂きたいと考えている。